経済産業省の発足と共に 原子力安全・保安院が新設されました

平成十三年一月六日に実施された省庁再編により、通商産業省は経済産業省として生まれ変わりました。

電源地域とも関係の深い、エネルギー政策をつかさどる資源エネルギー庁も大きく衣替えをしました。ここでは、新しく誕生した原子力安全・保安院について紹介します。

原子力安全・保安院の新設

「原子力安全・保安院」は、省庁再編によって、資源エネルギー庁の特別の機関として設立された全く新しい組織です。

原子力などにかかわる安全を万全にしていくこと、それが原子力安全・保安院の任務となっています。このため、この組織は、これまでの資源エネルギー庁などの推進部局から分離された独立性の高い行政機関となっています。平成十一年秋の臨界事故のようなことが二度と起きないように「規制」を着実に行い、事故を未然に防ぎます。万が一、事故やトラブルが起きても、迅速、的確な「防災」対策を講ずることが、原子力安全・保安院の仕事です。

これまでも、わが国では、原子力施設における安全を確保するため、一次規制庁である「通商産業省」及び「科学技術庁」が行った安全規制（一次規制）を、「原子力安全委員会」が妥当性を審査（二次審査）する、ダブルチェック体制を取っていました。

今後は、安全規制の実効性をより高めるために、二つの省庁が実施していた一次規制を一元化して、原子力安全・保安院が実施するとともに、二次審査を行う「原子力安全委員会」も、省庁再編に伴い、内閣府に移され、独立性が強化されました。

また、組織の強化に加え、人員もこれまでの体制に比べ大幅に増強し、ダブルチェック体制を取っていきます。

●原子力の安全規制と防災対策

原子力安全・保安院では、原子力の事故やトラブルを未然に防ぐために、原子力施設の機器・構造物に関する構造・材料や性能についての技術基準を定めます。そして、機器・構造物が原子力災害の防止に十分なものかを審査（安全審査）し、審査した通りに工事が行われているかを確認（工事計画・使用前検査）するとともに、運転に当たっても原子力事業者の保安管理方法（保安規定）の審査、施設の定期検査、保安規定の遵守状況の検査を行うことにより、原子力の一層の安全の確保に努めていきます。

一方で、万が一の備えとして原子力災害の特殊性を考慮した防災対策を万全にしておくため、防災基本計画の整備、緊急時に迅速かつ的確に対応ができるようにするための訓練などソフト面での対策を充実していきます。また、ハード面でも万が一、事故が起きた時、現地対策本部となるいわゆるオフサイトセンター（原子力施設から少し離れた場所に予め設けておく緊急事態応急対策拠点）の整備など防災対策の強化を行っていきます。

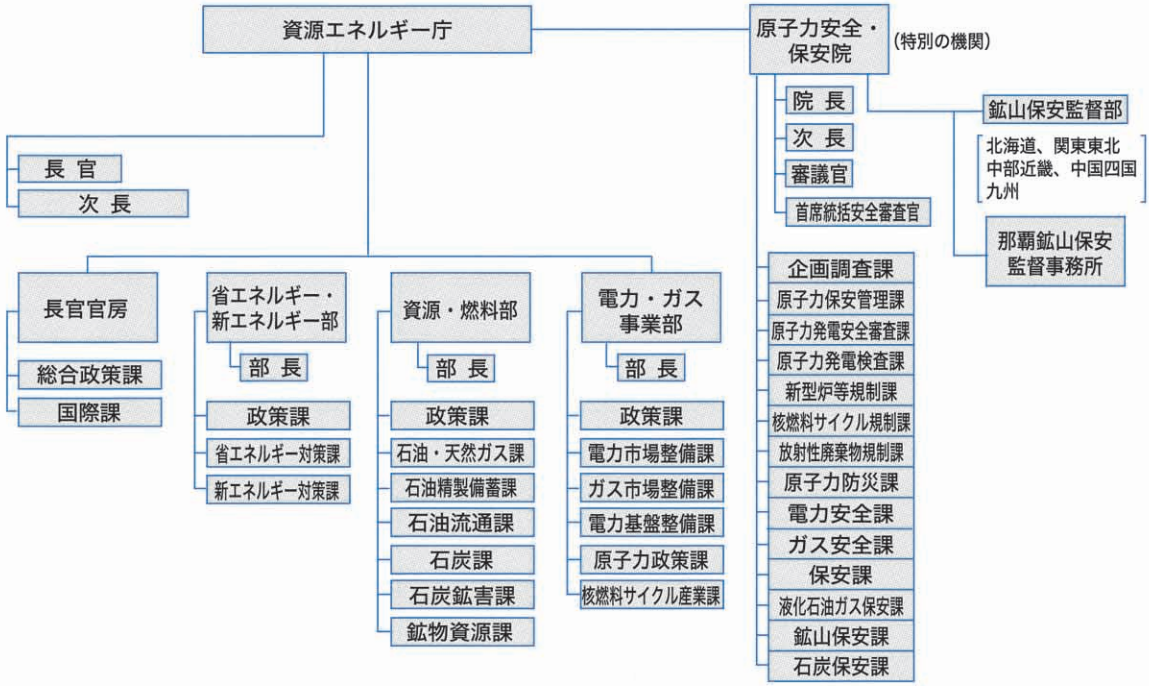
●原子力安全規制・防災対策の最前線における強化

原子力安全規制及び防災対策の実効性を高めるために、二つの施策を実施します。第一は「原子力保安検査官」です。約一〇〇人の「原子力保安検査官」が全国の原子力施設の現場で運転管理監督や施設における保安規定の遵守状況の検査などを行います。第二は、「原子力防災専門官」です。原子力災害の発生を未然に防止したり、万が一、災害が発生した際にその拡大を防止することが「原子力防災専門官」の任務です。二〇地点に約二〇人を配置します。

●産業保安の役割

資源・エネルギーの安定的供給を通じて、安心した生活や産業活動の継続的・安定的な発展を実現するためには、原子力だけでなく産業施設の事故や災害等の保安を確保し、国民の信頼を得ることが不可欠です。このため、原子力安全・保安院では、電気、ガス、高圧ガス、液化石油ガス、火薬類、鉱山などの産業保安対策を着実に実施し、国民の一層の信頼が得られるよう努めていきます。

[資源エネルギー庁の組織図]



電源開発調整審議会から総合資源エネルギー調査会へ

電源の開発や送電変電施設の整備を速やかに行うことにより、電気の安定的な供給を実現するために、内閣総理大臣が電源開発基本計画を立案し、電源開発調整審議会（以下、電調審と略す）の審議を経て決定することや、電源開発の実施に伴う国の行政機関間の調整に関する事項などを規定したのが、電源開発促進法です。

平成十三年一月の省庁再編に伴う、この法律の改正により、電調審は廃止され、今後は、経済産業大臣が立案した電源開発基本計画について、「総合資源エネルギー調査会」において、審議が行われることになりました。総合資源エネルギー調査会は経済産業省が事務局となります。

電源開発基本計画とは

国土の総合的な開発・利用および保全、電力需要、その他電源開発の円滑な実施を図るために必要な事項を考慮して、経済産業大臣が電源開発基本計画を立案し、国の関係行政機関の長に協議し、かつ、総合資源エネルギー調査会の意見を聴いて策定します。この基本計画は、今後十年間に運転開始させる発電施設の規模の目標、当該年度に開発する発電施設の規模と所要資金、新たに基本計画に組み込まれた開発地点の三つからなります。

総合資源エネルギー調査会とは

これまでは、「エネルギーの安定的かつ合理的な供給の確保に関する総合的かつ長期的な施策に関する重要事項を調査審議する」審議会として設置されていた総合エネルギー調査会は、省庁再編に伴い総合資源エネルギー調査会となりました。総合資源エネルギー調査会には前述の電源開発基本計画を審議する電源開発分科会のほか、鉱業分科会、石油分科会、石油需給調整分科会、電気事業分科会、高圧ガス及び火薬類保安分科会が設置されており、また、総合部会、需給部会、原子力部会、省エネルギー基準部会、新エネルギー部会、都市熱エネルギー部会、省エネルギー部会、原子力安全・保安部会の各部会が設置されています。

大丸大阪梅田店をメーン会場に「電気のふるさと産直楽市」開催

メーン会場「大丸大阪梅田店」

二月二日（金）から五日（月）まで、大丸大阪梅田店十三階催場をメーン会場に、「あいビジョンおおさか」前広場と「ビッグマン」前広場をサブ会場に、第八回地方中核都市物産展「電気のふるさと産直楽市」が開かれました。これは経済産業省と近畿経済産業局を後援に、電源地域振興センターが主催して行うイベントで、電源地域の特産品の販売を通じて、電気の生産地と消費地の交流を図ることを目的として実施するもので、年に一度各地の主要都市で行われています。北海道から沖縄まで四十九の電源地域市町村から四十三小間の出展がありました。今年は大阪開催とあって、特に多くの発電所を抱える福井県嶺南地域（敦賀市、美浜町、三方町、小浜市、大飯町）からの参加が目立ち、活気あふれた開催となりました。

メーン会場では、特産品販売のほか、来場者が会場を一巡すると答えが分かる「ふるさとクイズ」とスタンプラリーを実施し、参加された方々は、電源地域市町村の観光や産業に触れながら親近感を深め、電気の大切さなどを再認識していました。また五点以上の買い物をした人の中から、毎日、先着二千人にプレゼントされるオリジナルの「布製お買い物袋」は大変好評で、出展市町村の販売促進に一役買っていました。

また、出展市町村の特産品を紹介するコーナーとして「ふるさとアイディア料理大公開」と「ひと味ちがうお味噌汁コンテスト」も催されました。この二つのコーナーは、事前に出展市町村の特産品を使って辻調理師専門学校の講師が考案した独創的な料理のレシピや一般の方々が特産品を具に使用したアイデア味噌汁のレシピを当日会場のパネル等で紹介するものです。これらの料理は、入場者の関心を大いに集め、売り上げにも貢献していました。

好天にも恵まれ、会期中に延べ四万一千人が訪れる盛況ぶりでした。

「ひと味ちがうお味噌汁コンテスト」表彰式

「出展市町村のホームページ」へアクセス

花でまちおこし 早春・花イベント

3月16日(金)～4月1日(日)
第５回福寿草まつり（福島県・山都町）

山都町の沼ノ平地区は、５haに100万株が自生する日本最大級の福寿草群生地です。祭りの初日、３月16日には「全国フラワー・サミットin会津」が開かれます。期間中には小中学生を対象にした「写真教室」や「沼ノ平そばまつり」、「花見と野点（のだて）」などが行われます。25日(日)には盛大に「流しそば日本一に挑戦!!」というイベントも開催されます。４月１日、最終日は勇壮な「飯豊（いいで）権現太鼓」の響きで締めくくられます。

□問い合わせ：山都町商工会
電話0241-38-2254

3月17日(土)・18日(日)
第５回雪割草まつり（新潟県・西山町）

西山町大崎地区の人たちは、絶滅の危機にあった雪割草を自分たちの手で守り育て、30万株の花が開く一大群生地「大崎雪割草の里」を創り上げました。「雪割草まつり」では「大崎雪割草保存会」が３年以上かけて、丹精こめて育て上げた雪割草を販売。日曜日にはテレビの園芸講師による「雪割草栽培指導会」が開かれる予定です。「大崎雪割草の里」では、４月中旬まで雪割草の販売を続けます。温泉「大崎雪割草の湯」とセットで楽しむのがコツ。

□問い合わせ：西山町産業観光課　電話0275-47-4010

4月29日(日)～5月3日(木)
大多喜世界レンゲまつり（千葉県・大多喜町）

本多忠勝の城下町として栄えた大多喜町は、1985年、“幸せを呼ぶレンゲ草”をテーマに「大多喜世界レンゲまつり」を始めました。期間中にはレンゲの種が無料配布され、「レンゲ狩り」「大鍋コーナー」「レンゲの花輪づくりコーナー」「もちつき大会」などのイベントが目白押しです。公募カップルがヘリコプターで登場する「レンゲの里結婚式」も行われます。

□問い合わせ：大多喜世界レンゲまつり実行委員会
電話0470-82-2111

5月20日(日)
菜の花フェスティバルinよこはま（青森県・横浜町）

菜の花の作付面積日本一を誇る青森県・横浜町の「2001菜の花フェスティバル」。メインは「第11回菜の花マラソン大会」で、小学生から一般まで、17クラスで健脚を競います。このほか「菜の花畑バス散策とバーベキューツアー」「海からながめる菜の花ツアー」「菜の花押し花体験会」などのイベントが盛りだくさん。心静かに春の風情を楽しみたい人には「菜の花畑での野点」、家族連れには「菜の花大迷路」やヘリコプターでの「遊覧飛行」がおすすめです。JRのツアーコースも組まれています。

□問い合わせ：横浜町水産商工課　電話0175-78-2111